

福島県立図書館
東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 3
2013.7.31

■福島第一原発事故

『4つの「原発事故調」を比較・検証する 福島原発事故13のなぜ?』

日本科学技術ジャーナリスト会議／著 水曜社 2013.1 LS543.4/N25/1

1つの事故について政府、国会、東電、民間の4つの事故調査委員会が動きだし、それぞれに報告書をだしている。このようなこと事態、世界でも例がないことであるが、それぞれの立場で書かれたその報告書を比較・検証した本書の意義は大きい。

奥付に日本科学技術ジャーナリズム会議(JASTJ)について説明があるが、「いかなる権威にも拘束されないというジャーナリズムの原点に立つ、完全に独立した自由な組織として運営されている。」と記載されている。

■メディア 報道 写真集

『原発報道 東京新聞はこう伝えた』

東京新聞編集局／編 東京新聞 2012.11

福島原発事故直後から2012年6月末まで、東京新聞に掲載された原発関連記事や連載をまとめたもの。「原発事故取材班」は第60回菊池寛賞を受賞した。日本文学振興会はその受賞理由を「福島第一原発事故はなぜ起きたのかを調査報道の手段で探り、情報を隠蔽しようとする政府・東京電力を告発し続けた果敢なるジャーナリズム精神に対して」としている。真相を追求していく1冊であろう。

■農林水産業 動物

『のこされた動物たち:福島第一原発20キロ圏内の記録』

太田康介／著 飛鳥新社 2011.7 LS645/O1/1

一見、これまでと変わらないのどかな風景写真。でもやはり異様な雰囲気をはらんでい
る・・・そこに人はいない。いるのは悲しい目をした動物たちだけ。この本は、一人の報道カメラ
マンによる、2011年3月末から3ヶ月間の被災地での動物たちの記録です。突然飼い主と引
き離されたペットや家畜たちの姿を見るのはつらく、また、彼らを置いていかざるを得なかつた
人々の気持ちを想像するのとてもつらいことですが、フクシマの一側面の貴重な記録である
ことに間違いありません。

■復興 防災

『辺境からはじまる:東京／東北論』

赤坂憲雄, 小熊英二／編 明石書店 2012.6 302.12/A/125

東北と関わってきた8人の若手研究者の論文を収録しています。それらに共通しているのは、「中央」と「辺境」の関係に対する問題意識です。かつて製鉄業で隆盛を誇った釜石の今昔と「復興」のゆくえ、住民参加が活発だった飯舘村から見た〈村〉のくらしと〈都会〉のくらしなど、それらは、「復興」についての多様な視点を私たちに提示します。また、巻末の赤坂氏と小熊氏の対談では、1960年代から1990年代にかけて作られてきた社会構造についてあらためて知ることができます。

『災害のあと始末 「暮らし」を取り戻すための復興マニュアル』

林春男／監修 エクスナレッジ 2011.5 LS369.31/H4/1

被災した人々の生活と被災地の再建を図るために、一つ一つの問題を解決しながら前に進む復興マニュアルです。「り災証明書」の申請の仕方や家屋の解体、火や水の確保など被災直後の混乱する時期に役立つ情報から、一段落した後にくる心的ストレスの対処法、保険や支援金の申請手続きなどがわかりやすく解説されています。そして、この災害から得た教訓を生かした街づくりまで考えていきます。

『3.11 を心に刻んで 2013』

岩波書店編集部／編 岩波書店 2013.3 369.31/イ7 133

岩波書店のホームページに、震災後毎月11日に3編ずつ掲載されている「3.11 を心に刻んで」の第2期分をまとめたものです。様々な分野の方により、書籍などから引用した言葉と3.11に思いを馳せたエッセイが刻まれています。記憶と記録、祈り、歌、未来へ託すなど様々なキーワードで綴られる言葉の中に、忘れてはいけない記憶が甦ります。